



平成3年2月

黒浜西小 保健室

<学校薬剤師さんの紹介>

宮野先生は平成2年度から本校の学校薬剤師を務めてくださっています。

蓮田駅東口で「薬局オリーブファーマシー」と「オリーブ健康館」、伊奈町で「伊奈オリーブ薬局」を営まれています。「オリーブ健康館」では処方箋の応需ではなく、主に漢方相談、栄養相談、薬局エステなどを行っており、セルフメディケーションを推し進める業務を中心に行っているそうです。



1月25日に**学校保健委員会**を開催しました。

講話 「新型コロナウイルス感染症を知る」

講師 本校学校薬剤師 宮野 訓夫 先生

新型コロナウイルス感染症の現状と感染対策について、パワーポイントで資料を映しながらお話しいただきました。以下は資料からの抜粋です。

- ・ウイルスの感染力が強くて毒性も強いと、たくさんの方が死ぬが、ウイルスは人の細胞の中でしか増殖できないので、ウイルスも死んでしまう事になる。だから、ウイルスの感染力が強いと毒性は弱まるのが通常。
- ・肺炎ではなく本人の持病で死ぬ人が多いと言われる。
- ・乳児を除く子どもの罹患率が低かったり、感染しても症状が大人の半分しか出なかったりするの、子どもは新型コロナウイルスを取り込む受容体(ACE2)の数がまだ少ないため。乳児だけは、生まれて半年が過ぎると母親からの免疫が切れてしまうので、新型コロナウイルスに感染すると重症化する。
- ・ウイルスは手についただけでは感染しない。目、鼻、口の粘膜を通して感染するので、しっかりせっけんで手を洗って流水ですすげば(30秒くらいかけると)大丈夫。
- ・マスクは不織布のものがよく、正しいつけ方は、ひだの切れ込みが下向きになっている面を外側にする。マスクをつけることで粘膜を手で触らなくする効果もある。
- ・家庭内でルールを作るとよい(玄関で消毒するなど)。
- ・ワクチンは重症化するのを防ぐためなので、接種しても罹る事はあるが、70歳以上の高齢者は、効果の方がはるかに大きい。腎臓疾患がある人も接種した方がよい。
- ・子どもから老人まで、ビタミンD(肝油ドロップ)を摂取するのがよい。

新型コロナウイルスの感染力と致死率

国立感染症研究所の資料などから	感染者1人から感染する人数	致死率(%)	死者数
新型コロナウイルス	2.2~3.7	2.0	5000人以上 2020年~
インフルエンザ	2~3	約0.1 (国内)	約10000人 2018-2019年
SARSウイルス	2~4	9.6	
MERSウイルス	0.69	35	